

本書の刊行に寄せて

プログラミングは決して難しいものではありません。私がプログラミングを始めたのは中学校3年生のときでしたし、小学校に入学する前からプログラミングを始めた人もたくさんいらっしゃいます。Hello Worldを入力するには10秒もあれば十分ですし、簡単なゲームのようなものなら子供でも十分に作ることができます。なんとなく難しいイメージを持ってプログラミングを敬遠する人は多いですが、いざ始めてみればほとんどの人は、意外と簡単だった、という印象を持つのではないのでしょうか。プログラミング環境も日々進歩していて、昔に比べるとプログラミング入門の難易度はかなり下がっているとと言っても過言ではないでしょう。

しかし、単なる入門者向けの課題を与えられてプログラミングすることと、ソフトウェア開発を職業とする「プロフェッショナル」になることの間には、高い壁がそびえています。趣味の範疇であれば好きにプログラミングすれば済むことですが、プロフェッショナルとしてプログラミングするのであれば、開発には責任が伴います。

しかし、このプログラミングのプロになるために壁を乗り越える方法を説明してくれる書籍というのを私は読んだことがありません。私自身も本を書く身として言わせてもらえば、この種の本は書くのがとにかく難しいのです。本を書くような実績を達成した人は、プログラミングに入門したあと、センスに恵まれたか、先輩など周囲の環境に恵まれたか、それともまた別の理由かで、プログラミングスキルを身につけた人がほとんどで、私も含めていわば「生存者」です。そういう人が本を書くとなると、読者の気持ちがわからなくて困るわけです。

そういう意味では入門書も難しいのですが、こちらは誰もが読みたがるので、世の中にはさまざまなトピックについて「初心者」を対象にした「入門書」があふれています。

そこで、本書です。「入門」と「プロフェッショナルへの道」という2つの巨大な課題に果敢に挑戦した本書の初版は、そのユニークなポジショニングが評価されたか、たいへん評判が良かったとのことです。私も初版の前書きを書いた甲斐がありました。

初版の出版から4年、最新の状況も反映した第2版が出ると聞いたとき、私はたいへんうれしく思いました。本はすばらしいものですが、残念ながら技術系テーマを扱った書籍の場合、情報が古びてしまうのは避けられません。このような重要なポジションを担うこの書籍が、改訂され、最新の状況を反映したうえでみなさんのところに届くということは、単なる偶然ではなく、著者の伊藤さんをはじめとした各方面のみなさんの努力の結果成立した奇跡のようなものです。

本書が初版で数多の初心者を手助けてきたように、この改訂版が、あなたがプロの壁を乗り越えるお役に立ちますように。プロとしてRubyを使ってバリバリ活躍するみなさんをお見かけすることができれば、私にとって、これ以上ない喜びです。

リモートワーク中の自宅から
2021年9月
まつもと ゆきひろ

まえがき

本書を手にとってください、どうもありがとうございます。本書はプログラミング言語Rubyの言語仕様や開発の現場で役立つRubyの知識を説明した本です。本書の第1版は2017年に発売されました。たいへんありがたいことに非常に多くの方が本書を購入してください、そのおかげでこのたび改訂版を発売することができました。

本書の第1版では表紙にさくらんぼの写真を使ったことから、ネットなどでは「チェリー本」の愛称で親しまれてきました。この改訂版でもさくらんぼの写真を使っているので、同じように「チェリー本(もしくはチェリー本2?)」の愛称で呼んでもらえると嬉しいです。

■本書のコンセプトと対象読者

本書の基本的なコンセプトも第1版から変えていません。本書はある程度プログラミングの経験がある方が、仕事でRuby(とくにRuby on Rails)を使えるようになることを目的としています。ですので、次のような3つの条件に当てはまる方が本書の読者として最適です。

1. すでにほかのプログラミング言語で業務経験がある。もしくは独学やプログラミングスクールなどで、簡単なプログラムを作ったことがある。
2. Railsアプリケーションが作れるようになりたいと考えている。
3. すでに仕事でRubyを使っている。もしくはこれからRubyを使った仕事に就きたいと考えている。

それぞれの条件について少し詳しく説明しましょう。

まず、1つめの条件についてです。本書はRubyの入門書ですが、プログラミングの入門書ではありません。「変数とは」「配列とは」といったプログラミングの基礎知識は説明しないので、「プログラミングはまったく未経験です」という方にはちょっと難しいと思います。そういう場合はもっとやさしい入門書やオンライン教材などを使って勉強してから、本書に戻ってきてください(待ってます!)

次に、本書はRailsの入門書ではなく、あくまでRubyの入門書です。ですが、本書で解説する内容はRailsアプリケーションを開発する際に必要不可欠な知識を優先的に説明しています。本文に“Rails”の文字が出てくる箇所はごくわずかですが、解説するトピックの選択や説明内容には筆者のRailsアプリの開発経験が色濃く反映されています。よって、本書はRailsアプリを開発したい人にとって最適なRuby入門書となっています。これが2つめの条件の背景です。

最後の条件は業務レベルの知識が必要になるかどうかによって本書のおすすめ度が変わるため、用意した条件です。(電子書籍ではなく)紙の本で本書を読まれている方はわかると思いますが、本書はすごく分厚いですよね。これは「仕事でRubyを使うなら知っておきたい」と筆者が考える知識を詰め込んだ結果です。よって、仕事でRubyを使うなら早かれ遅かれ本書で学んだ知識が役立つときが来ます。逆に、「趣味レベルでRubyが使えればいいんだけど」という人にとっては、本書は少し網羅的すぎるかもしれません。

Railsは比較的簡単にWebアプリケーションが作れるため、ネットの情報を見よう見まねで書き写しても動くものができてしまいます。もちろん、それはそれで楽しいのですが、そのレベルでは仕事でやっていくには歯が立ちません。本書はそんなみなさんをプロの現場で戦えるレベルに引き上げるお手伝いをします。

本書を最後まで読むのはもちろんのこと、それに加えてサンプルコードを自分の手で動かせば、本書を読み

終わるころには「以前に比べると全然コードが違って見える!」とか、「Rubyの言語機能を使って、こんなにシンプルで読みやすいコードが書けるようになった!」と思えるようになるはずです。

■第1版からのおもな変更点

本書を購入するかどうか検討されている方の中には、すでに第1版を購入されている方もたくさんいます。そうした方のために、第1版からのおもな変更点を以下に挙げます。

- Ruby 3.0の言語仕様に完全対応(第1版の対象バージョンはRuby 2.4)
- Ruby 2.7から導入された新機能「パターンマッチ」を解説する章を新たに追加
- 第8章「モジュールを理解する」の例題を「rainbowメソッド」にリニューアル
- 第1版で「難しい、わかりづらい」という声が多かったトピックの説明を改善
- その他、第1版で言及していなかったトピックの追加や説明内容の細かな改善を実施

Rubyは後方互換性を重視しながらアップデートされます。そのため、第1版で学んだRuby 2.4の知識がRuby 3.0でまったく役に立たなくなるわけではありません。ですが、細かい言語仕様の変更は「チリツモ」でそれなりにたくさん発生しています。Ruby 2.7から3.0にメジャーバージョンアップされたこのタイミングで復習を兼ねてRubyの最新の言語仕様を学ぶことは、第1版の読者のみなさんにとって非常に有益なはずですよ。

また、一見すると第1版と同じ内容に見える部分も、実は細かなブラッシュアップがかけられています。中には「第1版の説明があまり適切ではなかったため、改訂版でより正確な内容に書き直した」という箇所もあつたりします(例:「2.12.7 requireとrequire_relative」の項など)。

筆者としては「たとえ第1版を持っていたとしても、今でもRubyを使った仕事に就いている人(もしくは引き続きRubyを使う仕事に就こうと思っている人)なら、この改訂版はきっと読んで損はない1冊になっているはず」と自負しています。ぜひみなさんの目でその真偽を確かめてみてください。

■これから本書を読むみなさんに向けて

前述のとおり、この改訂版ではRubyの新しい言語仕様に対応したり、よりわかりやすい説明に書き直したりして、内容が変化(進化?)しています。ですが、以下のような「説明の基本姿勢」は第1版から変わっていません。

- 常に読者の視点に立ちながら丁寧に説明する。
- 文章による説明だけでなく、サンプルコードをふんだんに用いて説明する。
- 難しい内容もなるべくわかりやすくなるよう、筆者が自分の言葉でできるだけみ砕いて説明する。
- Rubyをまったく知らない人でも無理なく読み進められるよう、初歩的な話題から高度な話題へ、順を追って説明する。

第1版のまえがきにも書いたとおり、本書は「分厚くて難しい技術書」ではなく、「分厚いが非常にわかりやすい技術書」を目指しています。数多くの加筆修正によって、本書のページ数は第1版よりもさらに増えてしまいましたが、わかりやすさへのこだわりは第1版から変わっていません。

本書の分厚さにどうかびらなないでください。これだけのページ数であっても最後まで読み進められるように、筆者が紙面の中で読者のみなさんと一緒に伴走します。本書を初めて読む人も、第1版を読んだことがある人も、筆者と楽しくRubyを学習していきましょう!

伊藤淳一